

# 2023 年度 FD・SD 推進委員会活動報告書

2024 年 6 月 18 日

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

## 1. 活動経過

2023 年 5 月	2022 年度後期授業改善のための学生アンケート(通年及び後期多人数科目対象) 顕彰授業表彰及び顕彰授業における工夫 Web 公表 *1
2023 年 7 月	FD 推進委員会規程改正により「FD・SD 推進委員会」へ名称変更 委員会構成員に総務部長が加わる
2023 年 7 月	2023 前期授業改善のための学生アンケート実施(前期少人数科目対象)
2023 年 8 月	2018 年度以降の「FD 推進委員会活動報告書」を本学ホームページにて公開 本学ホームページ「教育の特色」ページにおいて本委員会の取り組みを紹介
2023 年 10 月	2023 前期授業改善のための学生アンケート(前期少人数科目) 顕彰授業結果 報告及び顕彰授業における工夫 Web 公表 *2
2023 年 11 月	全学 SD 研修会「令和 4 年度大学設置基準等の改正に見る未来予測とこれからの 大学教育」実施 *2
2023 年 11 月	よりよい学びのための学生懇話会実施(学部生対象)
2024 年 1 月	2023 年度後期授業改善のための学生アンケート実施(通年及び後期少人数科目 対象)
随時	各教育組織で実施した FD・SD 研修等を記録し共有

-----  
\*1 令和 5 年度 教育の質に係る客観的指標調査票 に対応

\*2 令和 6 年度 教育の質に係る客観的指標調査票 に対応

学長ビジョンに基づくアクションプラン推進計画に沿って、2023 年度検討・実行した項目は以下のとおりである。

- ・ ICT に関連する外部研修の情報提供、参加推奨、参加者把握、成果の共有を行った。  
→ B-IV-1-1-①「教育用 ICT 機器・ツールを用いた教育方法に関する研修の促進」に対応
- ・ 2021 年度後期より導入している、教育組織ごとに行っている研修や学科講演会等の試みを記録し、互いに参考にする取り組みを継続した (pp. 3-9 参照)。  
→ B-IV-1-1-②「教育方法に関する教員間での情報共有体制の構築」に対応
- ・ 総務部と連携して SD 研修推進体制の整備を行った。  
→ E-VIII-2-1-⑤「教職員の能力開発強化に向けた FD・SD 活動の推進」に対応

## 2. 各ワーキンググループの活動

本委員会は、「授業改善のための学生アンケート」「講演会(全学 FD・SD 研修会)」「学生懇話会」の 3 つのワーキンググループを軸に、各委員が企画・運営を担っている。その活動について以下に報告する。

### (1) 授業改善のための学生アンケート

実施期間：〔前期〕2023年7月7日（金）～7月31日（月）

：〔後期〕2024年1月10日（水）～1月31日（水）

実施方法：CAMPUSSQUARE

対象科目：各センター・学科指定の少人数科目（履修者25名以下、大学院科目含む）

回答にかかる学生の負担軽減と、より適切なアンケートの実施を目的に検討を重ね、2022年度から実施対象科目を多人数科目（履修者26名以上）と少人数科目に分けて、2年間で全科目のアンケートを実施している。また設問項目の見直しを行い、2023年度は28問あった設問を23問とした。

集計結果は個々の授業及びカリキュラム改善に役立てるため、各授業担当教員及び学長、副学長、研究科長、学科長・センター長へフィードバックした。アンケート結果の全体的な傾向や顕彰授業については報告書にまとめて以下のホームページにて公表した。

<https://www.shirayuri.ac.jp/guide/financial/index.html#fdenquete>

なお、2017年度よりアンケート結果を活用した顕彰制度を導入しているが、2020年度後期にWeb実施に移行してからは、科目ごとの回答率に偏りが見られることから、昨年度後期より各授業の回答率を考慮して顕彰授業を選考、表彰している。顕彰授業の結果はpp.10-11のとおりである。

### (2) 全学SD研修会

本学における教育及び業務の在り方を省察し、更なる質の向上と充実をめざすことを目的とし、外部講師を招いて全学SD研修会を実施した（pp.12-15参照）。

実施日時：2023年11月6日（月）16:20～17:50

テーマ：令和4年度大学設置基準等の改正に見る未来予測とこれからの大学教育

講師：東京都公立大学法人 東京都立大学 理系管理課長 兼 学務課長 宮林 常崇 氏

実施形態：対面、Zoomでのリアルタイム配信、録画視聴

参加人数：143名

※ 専任教員78名、専任職員62名、非常勤職員2名のほか、サバティカル中の教員1名も参加した。サバティカル、休職者を除く、専任教職員の参加率は100%である。

### (3) よりよい学びのための学生懇話会

学部生を対象に、自己点検・評価委員会及び学内からの要望に基づき、「外国語教育」と「キャリア教育」の2点をテーマとして実施した。当日は2グループに分かれ、各学生が自身の受講や経験を振り返り、良かった点や改善点を出し合い活発な意見交換の場となった。報告書（pp.16-20）は内部質保証委員会、英語英文学科、キャリア支援課へ共有した。

実施日時：2023年12月5日（火）12:10～12:55

参加者数：学部生15名、教員3名、職員2名

以上

## 2023年度 各学科・センターのFD・SD活動

各教育組織にて実施したFD・SDに関する研修会等を報告いたします。

### カトリック教育センター

1	テーマ(タイトル)	SD: データサイエンスに関する動向と本学における取組みについて
	目的	データサイエンスに関する動向を学ぶとともに、大学教育に求められている課題やその対応について理解し、授業及び業務改善に繋げるため。
	種別(FD/SD)	SD
	開催日時	2023年8月1日(火)10時-11時30分
	場所(開催方法)	対面: 第2カトリック教育センター研究室
	主催	カトリック教育センターFD・SD推進委員
	講師	※匂坂先生による2022年度後期全学SD資料を用いて海老原が担当
	参加人数・氏名	2名: 釘宮、海老原
	内容(概略・成果等)	なぜ今データサイエンスか、との問題意識から、社会で起きている事象・AI利活用事例を確認した。主要な技術とAI社会が直面する課題・負の側面についても学び、本学で実施しているデータサイエンス関連授業内容を確認した。個々の担当授業においても、学生の学びに資するため、プライバシー等に十分留意のうえでAI利活用を検討実施する必要性を確認した。
	記入者	海老原晴香

2	テーマ(タイトル)	2023年度宗教学科目講師会
	目的	教学に関わる本学の動向共有と教材・教授法等の検討吟味を実施し、よりよい宗教学教育の実践へとつなげる。
	種別(FD/SD)	FD
	開催日時	2024年3月12日(火)10時半～12時半
	場所(開催方法)	セントボール・コイノニアルーム(2号館2階2207)
	主催	カトリック教育センター
	講師	カトリック教育センター専任教職員
	参加人数・氏名	16名 専任教員: 石井雅之、内海崎貴子、海老原晴香、釘宮明美、佐々木裕子、高山貞美 専任職員: 山口菜見子 非常勤職員: 光藤真知子 非常勤講師: 浅野幸、瀧岡啓子、滝口ひとみ、田口博子、豊島治、中西恭子、保坂ひろみ、村上寛
	内容(概略・成果等)	第1部 連絡事項(10:30～11:20) ○大学全体に関すること 1. 学則改正について(単位認定要件の変更ほか) 2. 就業規則改正について 3. 対面授業における支援・配慮申請手続きの変更について ※遠隔受講承認手続きについて 4. 2024年度入学予定者数について 5. 改組及びカリキュラム改編計画について 6. 質疑応答 ○カトリック教育センター関係 1. カトリック教育センター・コイノニアルーム関係 2024年度の予定について 2. 宗教学科目における学生の学修成果の発信について 3. 成績評価における修養会出席の扱いについて 4. 質疑応答 第2部 センターFD(11:20～12:30) 1. 入学前教材動画の導入と活用 2. 効果的な授業方法・教材 3. 授業出席・受講の現状と対応 4. リアクションペーパー、レポート等の提出状況と対策  入学予定者向けに制作した動画「白百合女子大学への扉」の内容説明並びに視聴を経て、参加全教職員で授業との連結を探る機会を得る。 また、その他の教材・教授法の実践事例・活用事例を共有。 授業出席・受講に関して心配な学生への対応、課題提出しない学生、期限を守らない学生等の現状を確認し、対応を検討。
	記入者	海老原晴香

## 基礎教育センター

1	テーマ(タイトル)	自己点検関連 基礎教育センター会議
	目的	ラーニング・アウトカム評価対象となる科目の検討・決定
	種別(FD/SD)	FD
	開催日時	2023年6月29日(木)
	場所(開催方法)	第1会議室
	主催	基礎教育センター
	講師	
	参加人数・氏名	6名・佐々木裕子・吉成啓子・松前祐司・今井福司・匂坂智子・山梨有希子
	内容(概略・成果等)	自己点検委員である今井先生から自己点検・評価委員会の議論の経緯が説明された。議論の上で、ディプロマポリシーの成果を測る科目を「パブリック・リテラシー」に決定した。
	記入者	山梨有希子

2	テーマ(タイトル)	白百合女子大学 共通科目FD講演会
	目的	今年に入り急激に広まった生成系AI、ChatGPTが教育現場に何をもたらすのか、レポートや成績評価等への影響について、教員が抱える懸念を払拭することを目的とする。
	種別(FD/SD)	FD
	開催日時	2023年8月8日
	場所(開催方法)	ZOOM
	主催	基礎教育センター
	講師	中園長新(麗澤大学国際学部准教授)
	参加人数・氏名	17名(専任教員6名:佐々木裕子・吉成啓子・松前祐司・今井福司・匂坂智子・山梨有希子、非常勤講師10名:榎原智子・大塚秀治・岩淵匠・藤田和美・北夏子・柚木理子・宮崎薫・小沼明生・馬場淳・遊佐重樹、専任職員1名:鳥谷顕子)
	内容(概略・成果等)	ChatGPTに代表される生成系AIについて基本的な情報を得るとともに、高等教育にどのような影響があり、それにどのように対応できるのか、教員間で一定の共通認識をもつことが出来た。
	記入者	山梨有希子

3	テーマ(タイトル)	SD:データサイエンスに関する動向と本学における取り組みについて
	目的	データサイエンスに関する動向を学ぶとともに、大学教育に求められている課題やその対応について理解し、授業及び業務改善に繋げるため
	種別(FD/SD)	SD
	開催日時	2023年9月28日(木)13時00分～14時30分
	場所(開催方法)	対面開催:2号館1階今井研究室
	主催	基礎教育センター
	講師	※匂坂先生の2022年度後期全学資料ならびに録画動画をを用いて実施
	参加人数・氏名	1名、今井福司
	内容(概略・成果等)	データサイエンスを巡って、社会動向の変化やデータをめぐる活用の変化について、ロボット、自動化、AIといった様々なトピックから確認を行い、大学教育に求められているデータサイエンス教育の理解を図った。特に参加者は司書課程の授業で、図書館情報学を扱っており、データや情報の扱い方について再考するきっかけを得られた。なお、本会は2023年度特別研修休暇を取得しており、2022年度後期全学SDに参加できなかった教員向けに実施した。
	記入者	今井福司

## 国語国文学科

1	テーマ(タイトル)	学科としてのラーニング・アウトカムズ検討
	目的	ラーニングアウトカムズについての理解を共有し、検討科目を選定するとともに、試案をもとに具体目標・評価基準を検討する。
	種別(FD/SD)	FD
	開催日時	2023年9月21日11時から11時半
	場所(開催方法)	1104教室(対面)
	主催	国語国文学科
	講師	油井原(話題提供)
	参加人数・氏名	11名(常盤、猪狩、伊東、井上、川瀬、小林、名木橋、萩野、宮本、室城、油井原)
	内容(概略・成果等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラーニングアウトカムズの概要について理解共有</li> <li>・学科で検討を実施する科目の検討決定</li> <li>・履修系統図の内容と検討事項の確認</li> <li>・ディプロマポリシーに基づき、シラバス内容と測定可能な具体目標、評価基準についての試案検討</li> </ul>
	記入者	油井原

## フランス語フランス文学科

1	テーマ(タイトル)	本学におけるCOIL授業の報告と課題
	目的	2023年度に本学科で行ったオンライン国際協働学習の報告と、その技術の伝達。また、乗り越えるべき課題に向けて話し合う。
	種別(FD/SD)	FD
	開催日時	2023/05/25 13:30～14:30
	場所(開催方法)	第三仏研
	主催	FD委員
	講師	二村淳子、アリア・デムナチ
	参加人数・氏名	9名 海老根龍介、大塚陽子、越森彦、二村淳子、辻川慶子、アリア・デムナチ、畠山香奈、村中由美子、善本孝
	内容(概略・成果等)	<ol style="list-style-type: none"> <li>①Padlet(オンライン掲示板)について</li> <li>②4月20日、5月11日授業報告</li> <li>③ハウリングおよびエコー問題について(学生アンケートより)</li> </ol>
	記入者	越森彦

2	テーマ(タイトル)	2023年度教育プログラム:COIL(オンラインを用いた協同学習)授業の実践および教材作成報告
	目的	言語や文化を異にする学生達が助け合って学ぶ授業を構築するための具体的手段を共有する。
	種別(FD/SD)	FD
	開催日時	2024/02/20
	場所(開催方法)	第2仏研
	主催	フランス語フランス文学科研究室
	講師	二村淳子/アリア・デムナチ
	参加人数・氏名	海老根龍介、善本孝、辻川慶子、大塚陽子、越森彦、畠山香奈(6名)
	内容(概略・成果等)	日本語とフランス語を母国語とするメンバーが混在するチームを作り、それぞれにどのようなテーマを与えたらよいかについての説明がなされた後に、学生が実際に作成したプレゼン動画が紹介された。
	記入者	越森彦

## 英語英文学科

1	テーマ(タイトル)	2024年度開始「卒業論文」新制度について
	目的	2024年度の4年生(新カリ一期生)から始まる新しい「卒業論文」制度の理解を深め、検討事項を審議する
	種別(FD/SD)	FD
	開催日時	2023年6月15日(木)13:10-14:30
	場所(開催方法)	第三会議室(対面)
	主催	学科長(岩政先生)
	講師	カリキュラム委員(水越先生)・教務委員(米田先生)
	参加人数・氏名	岩政、平尾、水越、山野、土井、木原、倉住、箕輪、米田、ジョンソン、スミス、上野、船田(敬称略、計13名)
	内容(概略・成果等)	・新しい「卒業論文」制度の概要に関する説明(カリキュラム委員)・検討事項に関する審議(分量、口述試験詳細、担当教員等)
	記入者	土井

2	テーマ(タイトル)	アセスメントについて
	目的	ラーニング・アウトカムズのアセスメントに関する現状の認識を共有するとともに、その改善点について検討する
	種別(FD/SD)	FD
	開催日時	7月13日13:00-13:30
	場所(開催方法)	第三会議室(対面)およびオンライン
	主催	英語英文学科
	講師	自己点検委員(倉住先生)
	参加人数・氏名	岩政(オンライン)、平尾、水越、山野、土井、木原、倉住、箕輪、米田、ジョンソン、スミス、上野、島田、船田(敬称略、計14名)
	内容(概略・成果等)	アクションプランに基づくラーニング・アウトカムズの明確化を進めることを目的とし、自己点検委員会より示された方針にしたがって、アセスメントテスト実施対象科目の現状を把握するとともに、今後の改善方針について検討した。倉住先生より資料(大学アクションプラン、学科CP・DP、CEFRのアセスメントの表)が示され、学習到達度の測定の手順、また語学教育における評価・測定・テストの関係性について説明があった。DP、CPと整合する教育の学修成果を明示するためのアセスメントの手始めとして、初年次科目と3年次科目の評価を通じて学修成果の経年変化を検証するという提案がなされ、そのための必要事項、問題点を検討した。
	参考資料・URL等	配布資料・学習成果のアセスメント・DP・CP検証における使用データ・アクションプラン推進計画書・CP・DP・CEFR Common Reference Levels: Table1 Global Scale Common Reference Levels: Table 2Self-assessment grid
	記入者	土井

3	テーマ(タイトル)	新課程に対応する入試問題(一般)作成について
	目的	高校新課程に対応する入試問題作成のために必要な変更点に関し、学科内で情報共有と検討を行う
	種別(FD/SD)	FD
	開催日時	2023年7月27日(木)13:30-15:00
	場所(開催方法)	第4会議室(対面)
	主催	学科長
	講師	学科長、前入試広報委員(米田先生)
	参加人数・氏名	岩政、平尾、水越、山野、土井、木原、倉住、箕輪、米田、ジョンソン、スミス(敬称略、計11名)
	内容(概略・成果等)	・昨年度10月に実施した学科SDで共有した、高校新課程に対応する入試概要の確認・上記のような入試を実施するにあたっての現実的変更点の検討(英語科目試験時間と一部作問の外部委託)・外部業者作成のサンプル問題の検討【成果】以下の点について合意を得た・一般入試(英語)実施時間の変更・新課程対応部分の入試問題形式の変更・該当部分作問の外部業者委託
	記入者	土井

## 児童文化学科

1	テーマ(タイトル)	ラーニング・アウトカムズとGPAの活用について
	目的	LOについて学び、選定を図るため
	種別(FD/SD)	FD
	開催日時	2023年7月13日
	場所(開催方法)	児童文化研究室
	主催	児童文化学科
	講師	なし
	参加人数・氏名	10名(井辻、浅岡、森下、間宮、水間、菊地、やた、酒井、小川、中島)
	内容(概略・成果等)	①ラーニング・アウトカムズとは何か? ② LOとアセスメントポリシーについて③アセスメントにおけるGPAの活用方法評価対象科目について 3つの項目に分けて他大学の資料を参考に学び、LOの対象科目について見直し、今後の明確化を図った。 LOとは何か?を知る良いきっかけになった。
	記入者	やたみほ

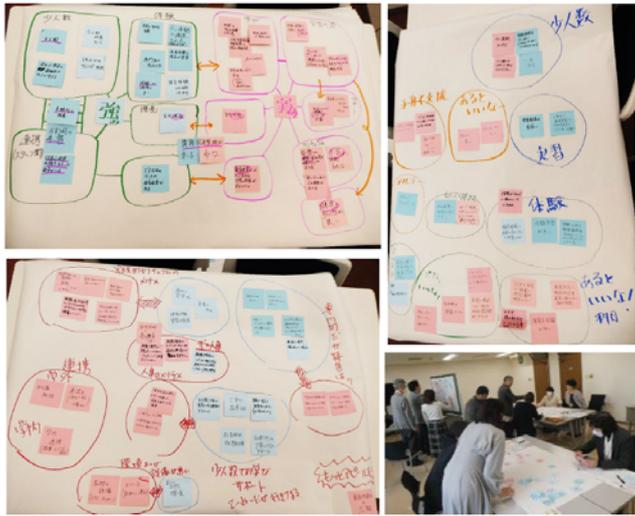
## 発達心理学科

1	テーマ(タイトル)	学科科目のラーニング・アウトカムズについて
	目的	ラーニング・アウトカムズ評価対象科目について協議し、決定する。
	種別(FD/SD)	FD
	開催日時	2023/06/08 12:30-12:45
	場所(開催方法)	3115室+Meet
	主催	発達心理学科
	講師	特になし
	参加人数・氏名	木部、菅原、鈴木、波多江、堀口、松田、太田、豊村、沓名、平井、広田、涌井
	内容(概略・成果等)	ラーニング・アウトカムズ評価対象科目について、導入科目と主要科目をその科目にするか話し合った。その結果、導入科目を「心理学概論A」、主要科目を「卒業論文」とする事に決まった。
	参考資料・URL等	DP・CP成果検証における使用データ(案) 2023年度 アクションプラン推進計画書(A123)
	記入者	涌井

## 初等教育学科

1	テーマ(タイトル)	ラーニング・アウトカムズの明確化に関する研修会
	目的	21世紀の特徴とそこで求められる高等教育に関して大学教育改革の動向等を確認し、学士課程教育の「質」の保証の方法に関する他大学の事例等もふまえて、初等教育学科の学士課程におけるラーニング・アウトカムズの明確化に関する検討を行う。
	種別(FD/SD)	FD
	開催日時	2023年7月13日(木) 12:10~12:50
	場所(開催方法)	オンライン
	主催	白百合女子大学人間総合学部初等教育学科
	講師	大貫麻美(話題提供)
	参加人数・氏名	教員(12名): 宮下孝広、石沢順子、神永典郎、坂本健、高橋貴志、中田正弘、曾我部多美、針谷玲子、川口潤子、大貫麻美、椎橋げんき、土橋久美子 職員(1名): 佐藤哲子
	内容(概略・成果等)	まず、話題提供者である大貫より、21世紀の特徴や求められる高等教育について整理した上で、大学教育改革の動向や、学士課程教育の「質」の保証の方法に関する他大学の事例紹介等を行った。その後、話題提供の内容をふまえ、白百合女子大学人間総合学部初等教育学科の学士課程におけるラーニング・アウトカムズの明確化に関して協議による検討を行った。 参加者からは、大学入職時に大学教育に関する知見が不十分であったことの省察と共に、今回の話題提供により、大学教育改革と質保証についての理解が深まったことなどが成果として報告された。 初等教育学科の学士課程における「質」の保証についての議論では、授業だけでなく全体のカリキュラムマネジメントと資質能力の整理、学習成果の可視化や学びの過程についての議論も行われた。これらの協議の結果、1年次学生を対象に開講されている「教育心理学」及び、3年次学生を対象に開講されている「教育相談(幼小)」において、まず、DPに示されている能力に関するラーニング・アウトカムズの明確化を進めることとし、そこでの成果や課題を今後、初等教育学科における学士課程教育全体のラーニング・アウトカムズの明確化に活かしていくことで合意が得られた。本学科の学生の特性をふまえて、教育者・保育者としての自信と力量を身につけて社会に送り出すために、教育評価の面から何ができるか、どのような方法によって行うべきかなどについて検討することなどが今後の課題として示された。
	記入者	大貫麻美

## 初等教育学科

2	テーマ(タイトル)	全学SD研修会を踏まえて～初等教育学科の課題と展望
	目的	11月に行われた全学SD研修会の内容を基に、初等教育学科のこれからの見据えた課題と展望に関する協議を行うため。
	種別(FD/SD)	SD
	開催日時	2023年12月7日(木) 13:30～14:20
	場所(開催方法)	第三会議室(対面開催)
	主催	初等教育学科
	講師	ファシリテーター: 大貫麻美
	参加人数・氏名	教員12名: 宮下孝広、石沢順子、大貫麻美、神永典郎、坂本健、高橋貴志、中田正弘、目良秋子、曾我部多美、川口潤子、椎橋げんき、土橋久美子 職員1名: 佐藤哲子 合計13名
	内容 (概略・成果等)	ファシリテーターにより、全学SD研修会の概要確認を行った上で、初等教育学科の現状分析を行うため、まず、個人で「初等教育学科の強みと弱み」について検討し、付箋に書き出す作業を行った(「強み」を青の付箋、「弱み」を赤の付箋に1項目ずつ記入することとした。)その後、3班に分かれて各自が記載した付箋を基に、KJ法による作図を伴うグループディスカッションを行った。 全体共有として各班の図が完成した後、それぞれの班で発表者を決め、他班に自分たちの班の図を示しながらディスカッション内容を紹介した。ファシリテーターが各班で共通して指摘されている点や、それぞれの班で課題と感じていることについて総括した。そこでは、少人数制の指導や教育体験・実習などが強みとして挙げられる一方で、体験活動とキャリア教育とのつながりの希薄さや、取得できる免許等に関する課題、学科独自の専門性の担保、少人数指導において主体性を育む観点での課題、学内設備に関する指摘等、改善や今後検討をすべき点などが整理された。 以下の写真は活動の様子と3班それぞれが作成した図である。
		
	記入者	大貫麻美

## 初等教育学科

3	テーマ(タイトル)	初等教育学科のこれからを考える～2040年を見据えたカリキュラムの検討に向けて～
	目的	日本の人口減少と少子高齢化が進行することにより、2040年に顕著に表面化するさまざまな社会問題の総称が「2040年問題」である。この2040年を見据え、これからの初等教育学科があるべき姿の検討を開始するために、ランチョンミーティングの形式でブレインストーミングを行う。
	種別(FD/SD)	FD
	開催日時	2024年2月20日(火)12:15～13:45
	場所(開催方法)	白百合女子大学3号館3007教室・meetオンライン(ハイブリッド)
	主催	初等教育学科
	講師	ファシリテーター:大貫麻美
	参加人数・氏名	教員12名(対面参加11名・オンライン参加1名): 対面参加:宮下孝広、石沢順子、神永典郎、坂本健、高橋貴志、中田正弘、曾我部多美、針谷玲子、川口潤子、椎橋げんき、土橋久美子 オンライン参加:大貫麻美 職員1名(対面参加):佐藤哲子
	内容(概略・成果等)	ファシリテーターである大貫より、「2025年問題」や「2040年問題」、グランドデザイン答申等についての概要説明を行い、認識共有をした上で、初等教育学科のこれからを見据えたアドミッション・ポリシーやディプロマ・ポリシーの検討に関する議題提案を行い、ランチョンミーティングとして自由発言のディスカッション形式で参加者全員によるブレインストーミングを行った。 全参加者が発言し、活発な議論がなされた。議論の内容は、「2040年問題を踏まえての社会の捉え」、「本学科で扱いたい『生涯発達』の捉え」、「本学科のこれからのに向けた考察」と多岐にわたるものであり、ここでの議論内容をふまえて、次年度もさらに学科としての在り方を検討していくことで合意がなされた。 なお、当初は対面開催の予定であったが、ファシリテーターに新型コロナウイルス感染症罹患疑いがあったため、急遽meetを用いたハイブリッドでの開催となった。
		
	記入者	大貫麻美

以上

# 「授業改善のための学生アンケート」2023 年度前期 顕彰授業について

2023 年 10 月 4 日

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」は 2010 年度より実施し、2017 年度からは集計結果を活用した顕彰制度を導入しています。アンケートの結果は個々の授業改善に役立てられているほか、高評価を得た授業を公表し、その授業の優れている点を大学全体で共有しています。なお 2022 年度より 2 年間で全科目のアンケートを実施することとし、本年度は履修者数が概ね 25 名以下の授業についてアンケートを実施いたしました。

2023 年度前期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業における工夫等を追って公開する予定です。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

## 2023 年度前期

### 「わらべうた研究」高橋 佳奈枝 先生（人間総合学部児童文化学科非常勤講師）

（前期 水曜日 5 限）

#### 白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的（実施要領より抜粋）

- ① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。
- ② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- ③ 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- ④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- ⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

#### 白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

##### [実施方法]

- ① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
- ② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
- ③ 集計する設問は、以下の 7 項目（項目毎の平均点の合計／35 点満点）とする。
  - Q6 教員の説明はわかりやすかった。
  - Q8 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
  - Q9 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
  - Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できた。
  - Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
  - Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
  - Q16 この授業の内容を十分に習得できた。
- ④ 顕彰対象は当該年度のアンケート実施対象授業のうち、6 名以上の回答が得られたものとする。
- ⑤ 顕彰対象は各学期第 1 位の授業とし、その授業の担当教員へ表彰を行う。
- ⑥ 表彰授業・担当教員名は、大学 Web サイトにて公表する。

##### [実施主体]

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

以上

# 「授業改善のための学生アンケート」2023 年度後期 顕彰授業について

2024 年 4 月 26 日

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」は 2010 年度より実施し、2017 年度からは集計結果を活用した顕彰制度を導入しています。アンケートの結果は個々の授業改善に役立てられているほか、高評価を得た授業を公表し、その授業の優れている点を大学全体で共有しています。なお 2022 年度より 2 年間で全科目のアンケートを実施することとし、2023 年度は履修者数が概ね 25 名以下の授業についてアンケートを実施いたしました。

2023 年度後期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業における工夫等を追って公開する予定です。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

## 2023 年度後期

### 「韓国語（中級）B」丹羽 裕美 先生（文学部国語国文学科非常勤講師）

（通年月曜日 3 限）

### 「児童英語教材研究」森 真理子 先生（文学部英語英文学科非常勤講師）

（後期木曜日 3 限）

#### 白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的（実施要領より抜粋）

- ① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。
- ② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- ③ 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- ④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- ⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

#### 白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

##### [実施方法]

- ① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
- ② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
- ③ 集計する設問は、以下の 7 項目（項目毎の平均点の合計/35 点満点）とする。
  - Q6 教員の説明はわかりやすかった。
  - Q8 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
  - Q9 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
  - Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できた。
  - Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
  - Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
  - Q16 この授業の内容を十分に習得できた。
- ④ 顕彰対象は当該年度のアンケート実施対象授業のうち、6 名以上の回答が得られたものとする。
- ⑤ 顕彰対象は各学期第 1 位の授業とし、その授業の担当教員へ表彰を行う。
- ⑥ 表彰授業・担当教員名は、大学 Web サイトにて公表する。

##### [実施主体]

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

以 上

## SD 研修会「令和 4 年度大学設置基準等の改正に見る未来予測と これからの大学教育」実施報告書

教職員のSD推進活動および自己点検・評価活動の一環として、高等教育動向に関するものとして、大学設置基準を取り上げ、今後の大学における諸業務の更なる質の向上と充実をめざし、学内SD研修会を企画した。詳細は以下の通りである。

日 時： 2023年11月6日（月） 16：20～17：50 クララホール  
方 法： 対面、Zoom でのリアルタイム配信、録画視聴  
テ ー マ： 「令和4年度大学設置基準等の改正に見る未来予測とこれからの大学教育」  
講 演 者： 宮林常崇先生(東京都公立大学法人参与)  
対 象： 全専任教員・全職員（非常勤職員の参加は任意）

### 講演内容：

講師の宮林常崇先生からは、まず、2022年度の大学設置基準等改正では、大学教育の現場の裁量はアップしているが、大学教育の質保証に向けた取組が進展する一方で、改善に真剣に取り組む大学と改善の努力が不十分な大学とに二極化しているという指摘や、改善の取組が単に認証評価への対応等のための形式的・表層的なものに留まっており、学修者本位の教育の実現や授業科目レベルでの教育の改善にはつながっていないという指摘もあるというお話がなされた。また、大学設置基準改正事項における現場の対応として、主な改正内容の他、基幹教員制度や、単位制度、アカデミックカレンダーなどについて、豊富な他大学での取り組み例の具体を挙げながら、わかりやすく説明がなされた。活発な質疑応答もなされ、盛会にて終了した。

### 参加者アンケート集計結果（回答数143人） ※2024年2月1日集計時点

#### 1 参加人数

専任教員 参加者78名/研修対象78名（参加率100%）

専任職員 参加者62名/研修対象62名（参加率100%）

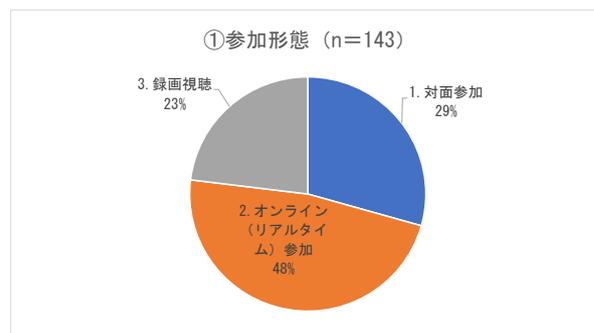
※ 研修会実施時在籍の専任（教員83名、職員63名）のうち、サバティカル、休職等を除く、  
教員78名、職員62名が集計対象

※ サバティカル教員1名、非常勤職員2名も参加  
参加した教職員の総数 143名

## 2 結果

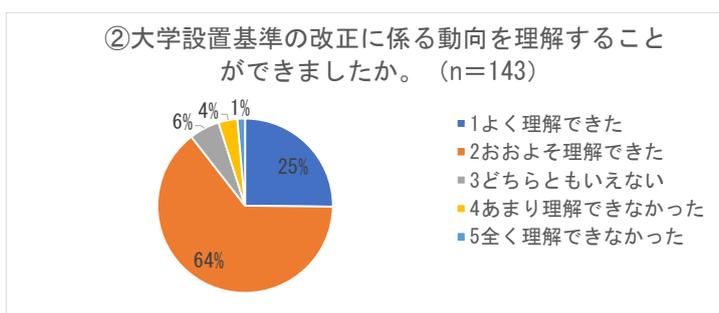
### ①参加形態 (n=143)

1. 対面参加	42名
2. オンライン（リアルタイム）参加	68名
3. 録画視聴	33名
合計	143名



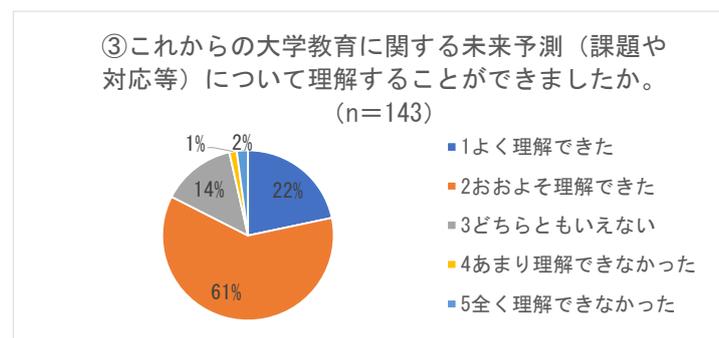
### ②研修内容（大学設置基準の改正に係わる動向）の理解 (n=143)

1. よく理解できた	36名
2. おおよそ理解できた	92名
3. どちらともいえない	8名
4. あまり理解できなかった	5名
5. 全く理解できなかった	2名
合計	143名



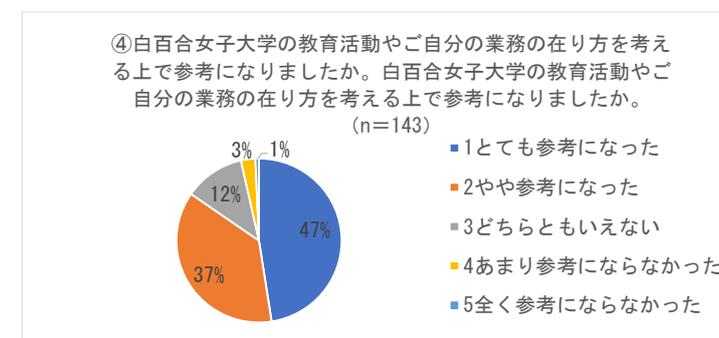
### ③研修内容（課題や対応）の理解 (n=143)

1. よく理解できた	31名
2. おおよそ理解できた	87名
3. どちらともいえない	20名
4. あまり理解できなかった	2名
5. 全く理解できなかった	3名
合計	143名



### ④教育活動や自身の業務の在り方の参考 (n=143)

1. とても参考になった	68名
2. やや参考になった	53名
3. どちらともいえない	17名
4. あまり参考にならなかった	4名
5. 全く参考にならなかった	1名
合計	143名



### ⑤本研修会の内容を今後どのように生かせると思いますか。（自由記述）

57名から回答があった（WGメンバー等運営スタッフを含む）。回答の一部を下記に抜粋する。

- ・ 文学部改組を考える上での基本的な知識であり、また、設置基準が緩和された部分をどう改組に活かすかのヒントにもなるかもしれない。

- ・ 特別専任の規程を見直す必要があることや、3ポリシーの記述の工夫など具体的な内容をお聞きでき、たいへんありがたい機会でした。単位数の根拠なども大学で働く教職員の基本知識として知っておくべき内容だと思いました。業務上直接関わりがないと定着しにくいかもしれませんが、設置基準の内容は繰り返し触れる機会があってもよいように思いました。
- ・ 基幹教員制度や単位数の設定など、改組の時こそ思い切った改善が可能ではないかと感じました。
- ・ 大学設置基準等の改正にともない、大学としての責任がより高まった。オンラインなどを用いて内部でさらなる円滑な情報共有と連携をとり、教職員で協力をして進めていかななくてはならないと考えた。
- ・ カリキュラム改訂の際に、基幹教員、主要授業科目、DPなどのバランスを考える必要があることが分かったため、今後の参考にさせていただきます。受験生や在学生にとって魅力があり、学んだ成果が感じられる授業やカリキュラムの在り方を改めて考える機会になりました。
- ・ 各種の規程の見直し等に活かさなければならないと思います。

#### ⑥本研修会に対するご意見やご感想

92名から回答があった（WGメンバー等運営スタッフを含む）。回答の一部を下記に抜粋する。

感想)

- ・ 参加しやすい時間数、時間帯でした。宮林先生のお話も大変わかりやすかったです。
- ・ これからの大学教育のあり方についてご教示いただき、ありがとうございます。新たな情報を得ることができて大変有益な研修会でした。引き続きよろしく願いいたします。
- ・ ベースの知識がなく、少々内容が難しかった。
- ・ これからの改組を考える上で非常に有意義な講演だったと思います。
- ・ 本学におけるカリキュラム構成と基幹教員の関係の見直しなど、これから見通して取り組まなければならない課題があることが分かりました。
- ・ 時宜にかなった企画であったと思う。時間がとれればもう少しききたいところでした。

意見)

- ・ このような全教職員が参加する研修会は大変貴重だと思います。学部改組含め全員が同じ方向を向いて進まなければいけない環境だからこそ継続して実施していただきたいです。
- ・ 職員と教員の研修をわけたらいかがでしょうか。
- ・ 設置基準の改正による、より具体的な他大の対応例などをたくさん拝聴できれば良かった。
- ・ 他の大学の事例は一番役に立ったと思われます。しかし、白百合に似てるような大学の事例がもっとあればいいと思われました。
- ・ この度は、貴重な機会をいただきありがとうございます。基礎的な知識がないと難しい内容だと思うので、事前に学習資料を配布するなど基礎知識をつけたうえで参加の方がより理解が深まると考える。全教職員が理解すべき内容であるため、定期的を実施いただきたい。
- ・ 教務に関わることで、このように全学の研修会があることは、学科内の足並みが揃って、共通理解の元カリキュラム検討が行えることにつながり、とても良いと思います。一方で、学則が変わらないことには、一向に自分事に思えない先生もいらっしゃると思うので、文学部改組

と同時期かそれより前に、学則の更新をしていただく方が、本学の教員人事の軌道修正が早めにできて良いのではないのでしょうか。

- ・昨年度DP・CPを変更しましたが、今年度、自己点検のラーニングアウトカム用にどの授業を指定するか、どのようにラーニングアウトカムを測るのか、といった点と関連させて考えられていなかったのではないかと思います。再度、これらのことを考え直す必要に迫られた感じがあります。ありがとうございました。
- ・今回は予定があって研修会に对面での参加が出来ませんでしたが、録画視聴を通して十分に理解できたように思います。今後も対面に加えて録画視聴での参加ができるようにしていただくとありがたく思います。よろしくお願いします。

## 2023 年度学生懇話会 報告書

【開催日】2023 年 12 月 5 日（火）12:10～12:55（図書館 L301）

【グループ】

「外国語教育」：学生 8 名参加 / 仏 4 年（4 名）、英 4 年、国 3 年、仏 3 年（2 名）

「キャリア教育」：学生 7 名参加 / 国 4 年、見 4 年（2 名）、国 3 年（2 名）、初 3 年、見 2 年

### テーマ① 大学での外国語教育（第二外国語）

【進行者】越 森彦（フランス語フランス文学科）

【記録者】教務課 青木

#### 第二外国語を選んだ理由について

<中国語>

好きなタレントが中国語を勉強していたことがきっかけとなった。（仏 4）

<ドイツ語>

・高校時代や大学受験で英語は学んできたため、大学では英語以外の別の言語を学びたい気持ちが強かった。フランス語とドイツ語との違いを勉強したかった。（仏 3）

・英語があまり好きではなく、オーストリアに行きたい気持ちがあった。先生もよかった。（仏 3）

\*なお、仏文科の学生は専門科目であるフランス語がすでに相当の学習時間を要するため、第二外国語としては英語を選択することが推奨されており、ほとんどの学生は英語を履修している。

#### 授業について

<肯定的>

・一緒に映画を見て感想を共有し、コミュニケーションツールとしての外国語だけでなく、言葉の背景にある文化を知ることができたことがよかった。（仏 3）

・映画のセリフのプリントに空欄があり、聴きながら自分で埋めていくという授業が印象に残った。（仏 4）

・英語の授業ではプレゼンやディスカッションなど、自分で動かないと何も始まらないものが多かった。英文の 4 コースのうち、「比較文化・文学」を取っていたが、授業は全て英語で行っていた。聴くだけでなくその後自分で英語を実際に使うようにすれば、眠くなるよう

なこともなくなると思う。(英4)

<否定的>

・「高校とは違う」と感じることを期待して大学に入ったが、英語については高校とあまり変わらなかった。普段自分では選ばないようなジャンルを扱った教材から学びたかった。オーソドックスな方法ではなく、その先生ならではの言語の触れ方が学びにはなると思う。(国3)

・退屈する学生は授業で教材として使われる映像資料がなんであれ退屈する。TED を使う授業もあるが、それなら一人でも見られる。授業では、今まで自分の知らなかった、その教員ならではの教材を見たい。(国3)

・授業で求められているアクティビティが簡単すぎることもある。道案内の練習をさせられるとは思っていなかった。(仏4)

・文法は高校までやってきたので、文法の説明と練習問題だけの90分は長く感じた。コミュニケーションは1年の時はオンラインだったため、お互いにカメラもつけずに知らない人と真っ黒な画面相手に話すことに抵抗があり、苦痛だった。(仏4)

・自分たちの代は1年次がオンラインだったため、2年次になってからフランス語の小テストなどを受けるのがとても難しかったが、今の1年生はほぼ対面でやっているはずなので、理解しやすいのではないか。(英4)

・中国語の授業で昔のテレビみたいな設備があり、見にくかった。中国語は先生によって求められるレベルが違い、自分が受けた先生は厳しめで月曜日に学んだものは木曜日に暗唱しなければならなかった。皆の前で読まなければいけないので一層緊張した。とはいえ、テストは別にあったが、漢字なので、ある程度点数は取れるし、出席もしていたので特に問題はなかった。今も同じ先生の中国語を受けているが、必修の時と違ってやさしめである。

マニアックな材料を使うと学生は退屈してしまうのではないかと思い、流行りものを使おうと考えますが、教員の研究者としての個性を生かした教材がよいことが分かった。

#### 大学に期待する授業

・面白さ。プレゼンなど主体的に動ける方法で。(国3)

・楽しみながら学べること。座学では面白くない。(仏3)

・英語はレベル分けされているので、できるクラスでは英語を学ぶのではなく、英語を通じて何かを学ぶのがよい。(仏4)

#### 大学の授業の改善点

・留学に行っていた時に、現地のネイティブの人が使う言葉を習った。第2外国語では完全に話せるようになるのは難しいかもしれないが、実際の現地で日常的に使われている言葉を習えることで、言語に対する興味も出るし、使ってみようという気にもなる。高校では

(大学受験の縛りがあるため) くだけた表現はなかなか教えてもらえないので、そのような表現を教えてもらえると大学の授業という感じがする。(英4)

・勉強してきたことが活かせる場が授業中にもっとあれば自信にもなる。教室の人数が多かったので授業の時間配分の問題もある。(どうしても1人あたりの話せる時間や機会には限りがある。)(仏4)

・グループワークやペア練習がやりやすいので、椅子に机がついているタイプがよいと思う。長机は移動がしやすいが、講義を聴くだけの時は逆に使いづらい。レジナホールにあるキャスター付きのものなどもよい。

・第2外国語はみんなが取りたいものではない。3種類の中からしか選ばなければならないため、必ずしも自分の選んだ言語に興味があるとは限らない。そういう人のためにも、興味を持てるような授業であれば第2外国語の意味も出てくるのではないか。(英4)

## テーマ② 大学でのキャリア教育

【進行者】 やたみほ（児童文化学科）

【記録者】 教務課 森田

【オブザーバー】 キャリア支援課長 大葉

### 就活の状況について

<4年生> 3人全員就職先が決まっている

・食品（お惣菜）関係（国4）…コロナ禍で食事に興味を持ち、食品関係に就職したいと考えた。就活を始めたのは遅かったが、キャリア支援課で何度も面接をしてもらったお陰で内定をもらえた。

・調布市役所（児4）…キャリア支援課で面接をしてもらいながら進む道を見つけていった。

・機械系の商社（児4）…キャリア支援課は利用せず、外部の説明会を受けていた。

<2、3年生>

一度会社の面接を受けた（国3）、学内のセミナーを受けた（国3）、国家公務員を目指して勉強中（初3）、インターンに2箇所通っている（児2）

4年生が内定先について詳しく話し、「キャリア支援課にお世話になったので、お礼が言いたくて参加した。」と言ってくれた。また、国文科の3年生が「同じ学科で就職先が決まった先輩と初めて話せた」と嬉しそうに言ってくれたことが印象的であった。

### キャリア支援課の利用について

<配信の内容>

適切であり役に立った（国4）

全員、日々チェックしていると回答している

<発信回数>

他のメールに埋もれてしまっていて見るのが追いつかないため、少し多いと感じる。

試験期間中は回数を控えるなど学生のスケジュールを考えて発信してもらいたい。

<発信時間>

通学時間が長いいため、朝8時半くらいに発信してもらえたら助かる（国3）

寝る前に見ることが多いが、ためてしまうことが多い。（国3）

<面談>

空き時間に予約することができ、利用しやすかった（児4）

アルバイトや就活で忙しく、一度も面談をしたことがなかった（児4）

<外部のアプリとの比較>

外部の就活アプリを使った場合、知りたい情報のみ受け取ることができて便利であるが、

OG 訪問については学内のキャリア支援課の方が安心して利用できる。(児 4)

情報は役立っているが、発信する回数を見直した方が良い。「ジャンルを選ぶことができ、興味のある職種の情報のみ受け取れるシステム」があったらよいと思った。面談の利用頻度については、個人差がここまであるとは知らなかった。時間割や個々のスケジュールに左右されるが、平等に利用できるようなシステムがあるとよいのではないだろうか。

大学の授業「キャリア研究」について

働き方については学べたが、いつどのように就活を進めたらよいかは分からなかった(国 3)

学科ごとに内容が違うということもあり、あまり情報が得られなかった。もう少し時間があつたら色々聞けたかもしれない。

～質問タイム～

「会社の面接で想定外の質問をされた時、どのようにこたえたらよいですか？」(国 3)

- ・沈黙を続けずにその場で思いついたことを話すようにした。想定外の質問はその人となり  
が試されることなので、普段から面接の練習をしておいて良かったと思った。(児 4)
- ・どんな質問がきても応じられるように会社について念入りに調べ、その会社に行きたいと  
いう熱意が伝わるようにした。(児 4)
- ・「少し考えさせてください」と許可を得てもよい(キャリア支援課)

「学内のセミナーはオンラインと対面どちらがよい？」(キャリア支援課)

全員一致で「対面がよい」

短い時間ではあったが、後半に質問が出て打ち解けた雰囲気になれたのはよかった。4年生  
同士趣味が合うことが分かり、楽しそうに話している姿を見ることができ、微笑ましかった。  
また、3年生が「キャリア支援課にいつでも行ってよいのですか？」と大葉さんに聞き、「い  
つでもどうぞ」という返答に安心していただけを見て、キャリア支援課に対して気後れしてい  
る学生のフォローが今後もできればよいと思った。